

再生エネルギー導入を阻む大手電力 脱酸素、地球温暖化対策はどこへ？

福島第一原発の重大事故を教訓に、日本のエネルギー政策は危険な原発を減らし再生可能エネルギーを主力にした安全で温暖化対策、脱原発を目指す方針に転換してきました。

しかし、岸田内閣は昨年7月頃から、経産省や電力会社、原発メーカーなどいわゆる「原子力村」とはかりエネルギー政策の変更を画策してきました。

そして国会や国民に一切知らされず、昨年末には閣議決定されてしまいました。

それは原発再稼働、新建設、運転期間の延長など原発を中心とした政策です。また、規制の独立を否定し、原発推進側に従属させるなどしています。



原発再稼働は許されない

す。原発は出力制御が難しく最優先で送電されます。再生可能エネルギーは最後に空きがあるときだけしか受け入れられません。

日本は諸外国に比べて再生エネの比率が低いのに抑制率が高く、再生エネ事業が後退する事態になっています。再生エネルギーを主力電源とすることは喫緊の課題であり、このようなどんでもない事態は放置できません。

（浜田見 太田勲）

「年金一揆」2023の動きとは！

2013年からの物価上昇がとまりません。食料品は昨年同月比から9%も上昇しています。年金も大変です。物価上昇よりも年金の改定が下になる現象が起きています。

年金は毎年改定されますが一度下げられると元に戻す仕組みはありません。来年度、民間の試算で賃金が3%上昇するのに対し年金は2、6%の増加にとどまる

このことです。物価高騰に賃金も年金も追いつかずますます生活が厳しくなります。

岸田政権が目玉とする来年6月の所得減税は恩恵なしが1000万人との試算もあります。

全国あちこちで今「年金一揆」の現象が起きています。今後も物価高騰は続くとのこと。対策として消費税減税はできないものでしょうか。年金に限りません。日本

3つの改革でくらしに希望を！

日本共産党が経済再生プランを発表

日本経済が30年にわたって深刻な停滞に陥り、それに加えて物価高騰が国民に襲いかかっています。実質賃金はピーク時の1996年から年収で64万円も減りました。社会保障や教育への公的支出はきわめて低い水準です。こんな国は先進国で日本だけです。

生活を守る緊急対策をとりながら、経済の落ち込みを打開する抜本的な改革を講じることが求められています。日本共産党は三つの改革で暮らしに希望をもたらす「経済再生プラン」を発表しました。

第1 物価上昇を上回る賃上げと待遇改善を政治の責任で行うこと。

大企業の内部留保は10年間で180兆円近く増えました。ここに時限的に課税して財源をつくり、中小企業の賃上げを支援する。最低賃金を全国どこでも1500円に引き上げることが可能となります。

第2 消費税減税、社会保障の充実、教育費の負担軽減など暮らしを支え、格差を正す財政改革。

消費税導入以来3回の税率引き上げは経済が停滞する原因となってきました。消費税廃止をめざし、緊急に5%に減税することが求められています。社会保障は国民の権利であると共に経済の重要な部分です。年金は物価上昇に応じて増えるものにする必要があります。

第3 気候危機の打開、エネルギー・食料自給率の向上

省エネ・再生エネの推進、脱炭素・原発ゼロの実現は世界5位の責任です。食料自給率の向上は世界的な食料危機を解決するために欠かせません。地域の循環型経済を発展させる上でも重要です。

「失われた30年」からどうしたら抜け出すことができるのか。日本共産党は経済再生プランをたたき台に、日本を危機から救う抜本策をつくりあげ、国民的議論を呼びかけます。

スマホって異常に高くないですか

10年以上使ってきたスマホの動きが遅くなり、ドコモショップへ。「寿命ですね、よく今まで使ってきましたね。新しく買った方がいいですか」。値段を聞くと10万円以上とのこと。びっくり。

今はスマホがないと暮らせない時代になってしまった。大事な連絡はすべてスマホでくる。



家族からの用事も、友人からの会議連絡もスマホ。一日1回はチェックしないと「どうして出ないの」と固定電話が鳴る。

年寄りがだまされるのも無理がない。パソコンはあまり苦勞しないで使える自分だが、スマホでは写真ひとつうまくとれない。プライバシーを公表するフェイスブックは怖くて躊躇する。

高すぎるスマホ。儲かりすぎている業界にメスを入れて欲しい。(3丁目 山本久子)

文芸欄 今月は俳句です

月光や夢追い求む老いてなお
「解散」の政争の具となり草枯れる
松茸も味見できずの物価高

美ちこ
幸代
由美



11月

コラム 有明

最近テレビで認知症の方が行方不明になるケースが急増しているとの報道があった。自身も以前70代の父親が認知症になり5年間ほど苦労した経験がある▼毎朝3時〜4時に起き母親を起こし外にでる。真っ暗だが行く方向は決まっていた。玄関の靴を隠しておく母親の小さな靴をひっかけて出ていく。途中で脱げると蹴飛ばし靴下のまま歩いた▼後をついていく。15分ほどで「家へ帰るよ」と言う素直に戻る。それでも3回ほど捜索願を出した。当時1頭3万円の捜索犬を3頭頼み探したが、発見場所は近くの小屋の軒下や灯油タンクの脇だったりした▼最後は脳梗塞で寝たきりになった。母親は楽になったと言った。始まりは、農家だったため朝軽トラで畑に消毒に行き戻ってから朝食、その後しばらくして「さあ、消毒にいくぞ」と、数時間前を忘れていた。また、電話を受けてしゃべり受話器を置いた途端、誰からの電話か覚えていない。等々▼明日は我が身かと思、安い材料でなを作ろうか考え、新聞を読み、人とお喋りする心をかけている。

部内資料

発行責任者 太田 勲 (62-5727)
議員連絡先 薄井 孝彦 (62-5093)
久子 (62-4357)
編集責任者 山本 久子 (61-1066)

265号
2023年11月

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな〜れ

イスラエル軍によるガザへの攻撃に 抗議する緊急スタンディング実施



20日(日)松川村西友前で「ストップ・ジェノサイド・イン・ガザ」緊急スタンディングが行われ約100人が集まりました。中信市民連合の又坂常人さん、ちひろ美術館の松本猛さん、共産党武田良介元参議院議員が訴えました。立憲民主党の下条議員、社民党の中川議員の訴えもありました。